



信用リスク分析のエキスパート、JCR（日本格付研究所）が
Web（ホームページ）で提供する会員制の格付情報サービスです。

1

JCR の格付情報が“総合的”にご利用いただけます。主なコンテンツは、発行体の詳細信用分析レポート「[発行体レポート](#)」、ESG 要素が格付に与える影響を説明した「[ESG クレジットアウトロック](#)」、各種の業界レポートや格付明細など、格付に関する様々な情報をとりまとめた「[格付関連レポート](#)」です。

2

業界の特徴や格付の考え方を解説する「[格付展望](#)」、企業や業界の決算動向と格付の視点を収録した「[決算レポート](#)」も、JCR のカバーする広範な業界を網羅すべく対象を拡げています。

3

日々公表される「ニュースリリース」に関し、RatingEye 会員は膨大なバックナンバーを[期間の制限なく](#)ご覧いただけます。また、ご希望の会員の方は、Web に掲載された日本語タイトルを電子メールでお知らせするサービスを追加料金なしでご利用いただけます。

4

ストレスのない軽快な操作感が特徴の一つです。PC、携帯端末など幅広い OS やブラウザに対応し、直観的に操作できるシンプル構造により、どなたでも快適に操作いただけます。半面、検索機能は充実しています。キーワード、発行体名、証券コードはもとより、カテゴリや業種などから目的とする発行体やレポート類を速やかに検索・表示し、容易に閲覧・印刷・保存などが行えます。

主なコンテンツ

発行体レポート

個別発行体の詳細信用分析レポートです。通常のニュースリリースによる情報に加えて、発行体の事業環境や事業リスク、損益・財務状況の解説とともに、現在の格付の視点や今後のポイント、総合判断と将来見通しなどについて詳しくコメントしています。文章情報のほかに、初回格付時以降の格付の推移や、主な財務指標、個別債券などのデータも掲載しています。

ISSUER REPORT

JCR 株式会社 日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency, Ltd.

2025年4月10日

長期格付	AA-
見通し+	安定的
短期格付	J-1+

※長期格付は、原則として長期間格付を表示

▼要約

国内外で瓶詰、飲料、食品事業を展開するアサヒグループの株式会社。1949年設立のアサヒビール（前身企業は1889年創立）を母体とする。2011年7月から持株会社体制に移行した。24/12期の売上収益構成は日本46%、欧州27%、オセアニア24%、東南アジア2%など。日本は酒類(42%)と非売上収益構成(28%)、飲料(13%)、食品(4%)で構成され、地域拡大を柱とする。各事業を子持ける。海外は16年から17年にかけて旧SABMiller社より欧洲事業（西欧、中東欧）を買収。また、20年にAnheuser-Busch InBev社のオセアニアにおけるビール・アサヒビール、アサヒ飲料、アサヒグループ食品などを手掛ける。

月に更新した主要指標のガイドライン（30までを目途）では、EPS (CAAGR: +1.5%台後半～+1%)やROE (11%以上、株主資本コスト8%程度)、ROIC (10%以上、WACC5.5～6%程度)などを主要指標として設定。加えて、黒字配当や機動的な自己株買いをカットとして打ち出すなど、資本政策を強く意識した内容となっており。なお、財務健全性に関しては、ネット有利子負債/EBITDA を2.5～3倍程度で維持していくことを方針としている。

▼事業環境・事業リスク

(1) 事業環境・事業リスク

ESGクレジットアウトロック

ESG要素が信用格付にどのような影響を与えるかを詳細に説明したレポートです。環境・社会の要素において、多くの企業が共通して重視するキーイシューを選定し、事業基盤、財務基盤への影響度をスコアで示し、説明を行っています。スコアは、個社ごとに、オポチュニティ、リスクのそれぞれの視点から、現時点と将来のふたつの時間軸で表示します。必要に応じ、業界全体での取り組みや課題についても言及しています。ガバナンス要素についても、アナリストの視点からの評価を行っています。

JCR ESG CREDIT OUTLOOK

2022年3月3日

5713	住友金属鉱山	長期格付*	AA-
		見通し	+ 安定的
		短期格付	J-1+

E S

E	オポチュニティ		リスク		オポチュニティ		リスク	
	現在	将来	現在	将来	現在	将来	現在	将来
現地変動	1	2	1	2	人材マネジメント	1	1	1
有形物の管理・循環経済	2	2	1	1	顧客との連携	1	1	1
自然環境・生物多様性	1	1	1	1	サブプライヤー・サプライチェーン	1	1	1
自然災害	1	1	1	1	社会課題	1	1	1

1 格付アナリストの視点

1. 格付アナリストの視点

■ E(環境)・S(社会)要素

(1) オポチュニティ

① 注目するキーイシュー/トピック、信用力評価

の諸要素との関連

キーイシュー、「気候変動」、「有害物質の管理・循環経済」について特に留意している。自動車の電動化などを含む場合、レビューションの悪化や、周辺住民から訴訟等に直面する可能性がある。

においては多量の電力を消費するため、将来的に電源構成に占める再生エネルギーの比率上昇や化石燃料の値上がりによって電力価格が上昇し、生産コストが増加する可能性がある。また、鉱山や製造所から排出される廃棄物や排水、排煙によって得られる公害が発生する場合、レビューションの悪化や、周辺住民から訴訟等に直面する可能性がある。

業界動向

通常のニュースリリースや個別発行体レポートでは不足しがちな、業界全体の情報を包括的にまとめたレポートです。業界構造、特徴や外部環境の変化、業界個別企業の地位やその変化、格付への反映の仕方・格付方法などをわかりやすく解説しています。定期的にアップデートを行うことで、常に新鮮な情報提供に心掛けています。一方、バックナンバーを参照することで、時々の環境変化も分析できます。

JCR

業界動向

2021年3月11日

外航海運

業績の回復によって信用力は落ち着いた状況

チーフアナリスト 水川 雅義・アナリスト 近藤 肇啓

1. 業界動向

外航海運は大手3社（日本郵船、商船三井、川崎汽船）の21/3期業績は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年比と比べて悪化することが予想されていた。しかし、コンテナ船の運賃市況が想定以上に上昇し、3社の定期コンテナ船事業を統合したオーシャン ネットワーク エクスプレス社（ONE）の収支が大幅に改善して、各社の業績を押し上げている。また、最終黒字の継続自己資本が緩やかに回復していることから、財務構成も改善に向かいつつある。今後も事業環境は楽観視できないものの、各社の信用力に対する下方圧力は従前と比べて弱まったと考えられる。本稿では外航海運業界の事業環境を概観し、現時点の大手3社に対する格付の見方を述べたい。

2. 外航海運

業績の回復によって信用力は落ち着いた状況

チーフアナリスト 水川 雅義・アナリスト 近藤 肇啓

外航海運は、決められた航路を定期的に運航する定期船と、特定の貨物（専用船など）個別に運航する不定期船に大別される。本稿では、定期船の大部

分が上昇した一方で、不定期船の土木工事の影響で

シテナ船社は減便などで供給量を削減し、需給調整を実施して需給バランスが崩れた結果である。他方、20年夏場から北米航路で荷動きが増加したため船種構成がタイト化した。新型コロナウイルス感染拡大による世界中の産業活動不景気の影響で、運賃市

格付展望

広範な業種・業態をカバーし、対象は 100 を超えています。普段余り目にすることのないニッチな業界もフォローし、その業界特性、動向、格付の視点や方向性を一覧性のある 1 枚のレポートに集約しています。最新版をお手元に保存していただければ、JCR の誇る広範な格付先業界の現状や見通しを速やかに“展望”できます。

JCR

格付展望

西日本エリアの民鉄

2021 年 2 月 26 日

世界の特徴

近年、近畿地方を中心に少子高齢化と人口の都市集中が加速している一方、インバウンドの増加などによる観光客輸送の需要が輸送人員を下さえしてきた。また、各社とも大規模ターミナル開設や再構築計画を推進している。

ただ、足元では各社とも新型コロナウイルス感染拡大によって鉄道事業を中心とした大きな影響を受けしており、21 3 月期は会社として多額の自己資本の吸収が生じる可能性が高く、近畿好業績を背景に自己資本の蓄積が進んできており、長いスパンでみれば財務構造の悪化が懸念されるところである可能性が示唆されている。しかし、コロナ禍の終息については依然として不透明感が強いことに加え、人の移動について構造的な変化が生じる可能性がある。

格付の視点

各社の鉄道輸送は昨年の緊急事態宣言以降底を打ったとみられるものの、コロナ禍以前と比較すれば依然として堅調である。多くの鉄道ではキヤナッショナルの過半を運輸事業が占めているため、今後の運輸事業の移行や見極めしていくことは非常に重要である。各社はコロナ禍を受けて中期経営計画などの見直し、を進めている様だが、今後新たな中期経営計画を策定する際は、運輸事業の立て直しをどのように進めるのかが注目される。

国際レポート

JCR

2021 年 3 月 10 日

JCR の国際部門アナリストが主にエマージングマーケットをアップデートし、最新情報をお届けしています。主要な経済指標はもとより、一般紙などでは余り採り上げない政治や裏情報なども積極的にレポートしています。格付の視点や政治経済動向をポジティブ、ネガティブ要因に明確化しており、その変遷や今後の見通しも容易にご覧いただけます。

国際レポート

大中華圏、その現状と展望

チーフアナリスト 田村 麻理

00 年代半ばに「大中華圏」という概念が提起されてから 20 年近くの歳月が経過した。これは、中国の發展を香港、シンガポール、台湾など中華圏の国々とのネットワーク型の發展として捉え、それを基盤して表現した言葉である。当初は、あくまで理想的なものとみられていた概念であったが、その後の開拓圏の経済発展と貿易・投資の拡大を通じて次第に実体を持ったものへと発展してきた。加えて、IT 革命による開拓圏におけるネット上の交流も進化・拡大している。その結果、大中華圏は近隣諸国のみならず世界全体にとっても無視できない存在となっている。

本レポートでは、大中華圏の 00 年代以降の経済發展についてデータに基づいて確認した上で、国内主要構成国である中国、台湾、シンガポールの経済發展の現状を分析し、政治的緊張という問題をはらみつ发展を続ける開拓圏の今後の展望について考察する。

I 大中華圏の経済発展の概要

図表 I 概要 (10 年)

図表 2 世界全体の GDP における各国構成比

その他

グローバル化の一環として JCR では、G7 から新興国に至るソブリンはもとより、注目業界・企業へと海外発行体に関するレポートの対象範囲を拡げていきます。また、専門分野の素朴な疑問にお答えする「Q&A」や JCR の格付先および対象債券を一覧できる「格付一覧（毎月末）」など、上記以外にも JCR オリジナルの付加価値の高い情報を会員に提供しています。信用クレジット分析のプロには必須アイテムといえます。

Q & A 新型コロナウイルス問題と J-REIT

2020 年 6 月 12 日

Q 新型コロナウイルスの感染拡大が全世界に広がっています。日本においては緊急事態宣言の解除などがあるようですが、今後の J-REIT に与える影響は?

注目しておく必要があるでしょう。

Q 物件の収益性への影響とは、具体的にどのようなことが考えられるのでしょうか。

A 確かに、広汎な感染の大懸念は、当初問題になっていたサブプライムローンの寸断にほどまらず、相次ぐ大都市のロックダウンによって世界金融のマクロ経済にも影響が甚大となっています。日本でも、5 月後半には感染されたことはいえ、2 ヶ月近く続いた外出自粛などの感染防止策による需要減退は、景況感の大幅な悪化を招いているものと想定されます。まだ今後発表される経済指標によって明らかになるものも多いではないでしょうか。もちろん、業態によって影響の濃淡は異なっており、休業を余儀なくされていた飲食や娯楽、エンターテイメントといった

他の業態に比べて影響は少ないといふことがあります。もちろん、そこで働く従業員の雇用や入居に際して投資した内需などの償却問題など、赤字になったからと言って簡単に退散できるとは限りませんが、オフィスや住居のように賃料は必要経費として割り切

ニュースリリース

1998 年 1 月以降に JCR が公表した全てのニュースリリース（オリジナル版）を掲載しています。会員は期間の制限なく全件閲覧できます。ストレスのない検索・表示機能により、初版から最新のものまで迅速に情報を収集できます。

付帯サービス

アナリストコンタクト

RatingEye 会員は、JCR の格付担当アナリストと電話や面談で、直接お話しいただくことができます。ニュースリリース、発行体レポートはじめ各種のレポート内容や格付方法などに関する疑問の解明、分析のポイント、注目点・将来見通しなど、文章情報に加えてアナリストの「生の声」情報を得ることで、より理解を深めていただくことが可能です。

RatingEyeセミナー

JCR では、RatingEye 会員限定の「RatingEye セミナー」を頻繁に開催しています。会員の方はどなたでも無料でご参加いただけます。セミナーでは毎回、特定の業界や話題など会員のニーズに則した多様なテーマを取り上げ、動向や取り巻く環境、考え方、見通しなど、担当アナリストが参加者に丁寧に解説、コメントします。

システム要件

OS

Windows、Mac OS、Android、iOSなどの主要 OS

Web ブラウザ

Chrome、Edge、Safari、Firefoxなどの主要ブラウザ

その他ソフトウェア等

収録ファイルを閲覧するために、別途 Adobe Reader が必要です。

※ 各々のバージョンが著しく古い場合などに、正常に表示されないことがあります。

ご利用料金等

本サービスは会員制の有料 Web サービスです。
ご利用にあたっては規約にご同意いただいた上で、[会員登録手続きが必要](#)です。

手続き完了後、ご担当者様にユーザ ID とパスワードを発行いたします。

ご利用は、利用規約に従って、お申込書に記載の[ご利用部署内に限ります](#)。
お申込み部署以外の方はご利用いただけません。同一部署内で同時に複数のアクセスを必要とする場合には、複数 ID の取得が必要となります。

ご利用料金等

【サービス料】

- ◆年間 650,000 円（税別）
- ◆同一部署内追加 ID：1ID ごとに年間 325,000 円（税別）

【ご利用期間】

当社が指定した日から 1 年間（年単位となります）。
2 年目以降は、期間満了 1 カ月前までに文書による利用終了の通知がない限り、
1 年間の自動更新となります。 ※期間中途解約の場合、利用料金の返還は致しません。

【お支払方法】

当社請求書に基づき、所定の銀行口座にお振り込みいただきます。

お問い合わせ・お申込み

株式会社 日本格付研究所 情報サービス部

〒104-006
東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル
TEL : 03-3544-7013
Email : ratingeye1@jcra.com